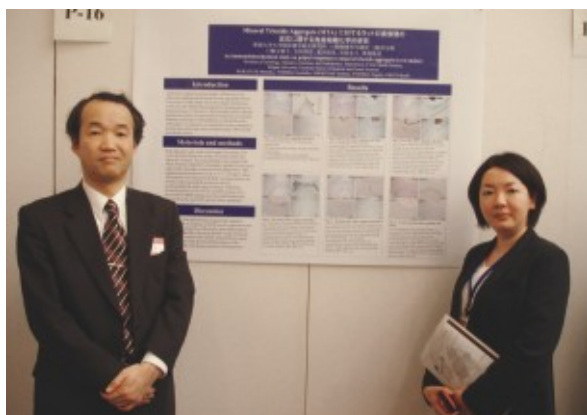


# 大学院修了にあたって

## 大学院修了にあたって

う蝕学分野 鞍立 桃子



2004年10月23日夕方。市内某ホテルではう蝕学分野の同門会が行われており、私が入り口で受付係をしていたその時。建物が大きく揺れました。随分長いこと揺れていましたが、収まって一安心と思つたらまた揺れて。これは尋常な事態ではないと思つた頃に、どこからか「長岡が震度6！」との声。新潟県中越地震でした。幸い実家は倒壊等の大事はなかったのですが、お休みを戴いて片付けに帰る事になりました。大体片付いたと思つたのが余震で全部おじゃんになったり交通機関が止まったりして、2日で帰るつもりだったのが結局1週間居る羽目になりました。思えばこの日が普通の週末なら、私は実家で本震に巻き込まれていたかも知れないわけで、新潟大、中でもう蝕学のお世話になった事に運命的なものを感じます。……さすがに言いすぎかも。

そもそも、他大学出身の私がなぜ新大へやって来たかと申しますと、実はあまり深い理由はありません。あえて言うなら「他の大学も見てみたい」とか、「折角大学に残るならちょっと研究してみても良いか」程度の大変場当たりのな動機で、中でもう蝕学を選んだのは、たまたま御縁があったからという感じでしょうか。

入局一年目は、興地教授のアシスタントということで外来診療に携わりました。大学時代は臨床見学のみで、ほぼ患者様に触るという事がなかった私はアシストどころか足手まといだったと思いますが、間近で大変ハイレベルな臨床を拝見させて頂いた事はとても貴重な体験でした。そして一年目の後半から、徐々に自分で外来診療を行うようになり、患者様を診療させて頂きました。毎日自分の至らぬ所に何かしらの後悔を覚える日々でしたが、大変勉強になりました。まだまだできない事だらけでこれから精進しなければと思いますが、大学院生としては臨床経験は多い方だったと思います。

研究については、入学後まもなく「充填用レジンのフッ素徐放性について」というテーマを頂いて、日々フッ素イオンの計測をしていました。二年目からは学会発表をさせて頂き、遠くへの学会出張に味をしめて以後、色々な土地へ行く事ができたのはとても楽しかったです。その後の研究内容は「直接覆髄材に対する歯髄の反応」というテーマにシフトして、う蝕学と並行して硬組織形態学のお世話になる事となりました。大学院生活も折り返し点というのに動物系に関する知識はゼロで、最初は毎週のセミナーについていく時点でやっとでしたがーから教えて頂いてついていけるようになりました。う蝕学には学年の近い先輩がいなかったのも、その点でも色々助けて頂きました。動物実験は、さすが生き物が相手だけあって時間的にも肉体的にも大変で、様々なイレギュラーに悩みつつ、ケージを抱えて何度も歯学部と動物舎を往復する日々でした。学会前の追い込みで、段々と右肩が痛むようになって医者へ行ったら「五十肩です」と言われてショックを受けつつ痛み止めを飲んで乗り切ったのが一番辛かったときですが、それまで本気で努力した事のなかった私がー皮むけたような気がした（たぶん錯覚ですが）出来事でもありました。

そうしている間にいつのまにか4年が過ぎました。もう少しで学生生活も本当に終わりかと思うと少々寂しい気もしますが、ここまで来る事ができたのは興地先生をはじめう蝕学と硬組織形態学の先生方、歯の診療室外来スタッフの皆様をはじめ、沢山の方々のおかげです。本当に感謝しております。臨床も研究も未だ出発点に立ったばかりですが、これから頑張っていこうと思います。

## 大学院修了に当たって

歯周診断・再建学分野 梶田 桂子



大学院に入学して4年、月日が経つのは早いもので楽しかった大学院生活が終わろうとしています。進路に迷っていた6年生の時、歯周科の抄読会に参加する機会がありました。内容は歯周病原性細菌とアテローム性動脈硬化症の関係性を報告した1編の論文だったと思いますが、わかりやすくかみ砕いて説明してもらったにも関わらず当時の私にはほとんど宇宙語に聞こえ理解出来ませんでした。しかし、宇宙語で熱のこもった討論を繰り広げる先生方が総診で見ていた先生とは同じ人物には見えなくて……。すごい事を勉強・研究している人達がいるものだな、私も仲間に混ぜてもらいたいと思ったのが歯周科の門をたたいたきっかけです。

若干ミーハーな気持ちで始まった私の大学院生生活ですが、いま改めて振り返ってみてここは頑張ったといえる事が大きく二つあります。まず一つ目は英語です。最初の頃はアブストを読むのに一日かかったり、全訳してもその日本語の意味が分からなかったりと苦労しました。しかし、ジャン先生の講義で英語科学論文の書き方・読み方を勉強したこと、英語で書かれた説明書や日々発表される論文など英語とは無縁ではられない生活を過ごした甲斐があり、いまでは英語に関して抵抗がなくなりました。二つ目はもちろん研究!!です。これまた最初の頃は顕微鏡を両目でみるの

もままならない状態で、教えてくださる先輩には多々ご迷惑をかけたかと思います。しかし、先輩方の苦勞をよそに私自身は、血液からDNAを抽出しては感動、細胞がすくすく育つては感動、遺伝子導入で組み込んだ形質が発現しては感動と一日一日、新しい手技を覚えていくのがとても楽しかったです。そんなこんなで実験手技に慣れて来た1年生の後半になると研究テーマを与えてもらいました。いざ一つのテーマに取り組んでみると、結果は思うように出ません。しかし、つらかったかと聞かれるとそうでもなく、上手くいかなかった点を改善したり、教科書に載っている様な事実を自分でも再現できて喜んだり、思ってもいない結果に驚いたり一喜一憂しているうちに月日が流れたという感じです。その中でも3年生のクリスマスに学位論文が国際誌にアクセプトされ大きなプレゼントとなったこと、その学位論文がPubMedで検索できるようになったことは大きな喜びでした。また国内および国際学会にも参加する機会に恵まれました。ニューオリンズで行われた国際歯科学会で発表し海外の研究者達とディスカッション出来たこと、年2回の国内学会でその道のエキスパートの先生方からアドバイスを頂いたり、同じ研究をする大学院生と意見交換が出来たりしたことは研究を続けるモチベーションになりました。今後は、これらの経験を糧に研究に臨床に精進していきたいと思っております。

最後になりましたが、このような機会を与え、熱心に指導をしてくださった山崎先生、吉江先生をはじめとする歯周科の先生方、研究面の相談だけでなくプライベートでも仲良くしていただいた大学院の先輩や同期、後輩のみんなに感謝しております。ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願い致します!

## 大学院修了に当たって

顎顔面口腔外科学分野 庭野 将 広



ジャズの本場は最高でした。国際学会で発表の機会を与えていただき、ニューオーリンズで開催されたIADRに参加させていただきました。学会会場では何とか英語を聞き取るのに精一杯でしたが、世界の歯科学でどんな事が行われているのか、最新の知見に触れることができました。また、夜は名物のザリガネとワニを食べながら、うまいビールを飲み、そしてBGMは生のジャズと一生忘れることのない思い出ができました。思えば学会の抄録を出してから半年間、それまで寄り付きもしなかった英会話のコーナーで本を買って勉強し、その日に備えました。英会話が役立つのはどちらかというと学会の外でしたが、少しのアクシデントも何とか拙い英語で乗り切ることができました。

さて、発表の中身である私の研究ですが、口腔解剖学分野で顎関節の発生、特に顎関節滑膜に着目した基礎研究をさせていただきました。滑膜は顎関節症をはじめとする顎関節疾患の病態形成に強く関与しているにも関わらず、滑膜細胞に関しての細胞生物学的な特徴に関しては未だ不明な点が多く残されています。それを少しずつ明らかにしていくための研究ですので、興味深く面白いものでした。研究といっても頭を使うだけでなく、狂ったように切片を切ったり、写真を撮って現象したりと超体育会系な部分もありましたが、そんな時にきれいなデータが得られると、とても嬉し

かったのを覚えています。もともとは顕微鏡を覗くのが苦手だった私ですが、前田健康先生、井上佳世子先生をはじめ、口腔解剖学分野のスタッフの方々から丁寧にご指導くださったおかげで、なんとかデータをまとめ、国際学会での発表、論文まで仕上げることができました。今は本当にホッとしています。

臨床では、大学での研修はもちろん、関連病院でも素晴らしい指導医の先生方に大変お世話になりました。全身麻酔の手術を執刀させていただく機会もあり、まだまだ未熟ながら口腔外科の面白さがだんだん分かってきたような気がします。自分が担当させていただいた患者様が治っていくのを毎日診察し、退院する時に感謝の言葉を頂いたときは本当にこの職業を選んで良かったと再認識させられました。口腔外科の疾患の中には生命に関わるものも含まれるため、つらい現実に向き合うこともありましたが、その中でも一生懸命に病气と闘う患者様からたくさんのことを教えていただき、それが自分の支えとなることもありました。

多くの良い経験をさせていただきましたが、今になって大学院生活を振り返ると、学ぶための姿勢が身についたことが一番大きかったと思います。当たり前かもしれませんが、基礎研究に関してはもちろん臨床で悩んだ際にも、解らないことや問題点を明確にし、熱意をもって解決していくことがとても重要なのだと実感しています。これからも、生涯学び続け、患者様に恩返しができるよう日々研鑽を積んでいきます。

そして、最後になりますが、心身ともに健康で頑張れたのは周りで支えてくれた人たちのおかげと思っています。いつも支えてくださった先生方、友人、家族にこの場を借りて深謝いたします。ありがとうございました。

## 平成19年度 大学院医歯学総合研究科博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名(専攻)	博士論文名
博士(歯学)	SHARMIN FARHANA (加齢歯科補綴学)	Effect of post type and loading condition on the failure resistance and primary failure mode of flared canal teeth restored with fiber-reinforced or cast posts (ポストの種類と荷重条件がファイバーポストや鋳造ポストで修復した漏斗状に窩洞形成された歯根の破壊強さと初期破壊様式に及ぼす影響)
博士(歯学)	ALGUNAID TALAT HASAN (歯科矯正学)	Soft-tissue Cephalometric Norms in Yemeni Adult Males (イエメン人成人男性の軟組織のセファログラム分析)
博士(歯学)	YASSIN ALTAJ ALTIGANI HEMOUDI (歯科矯正学)	The effect of timing of secondary alveolar bone graft on craniofacial morphology in patients with unilateral cleft lip and alveolus (片側性唇顎裂症例において二次的顎裂部骨移植の時期の違いが顎顔面の成長発育に及ぼす影響について)
博士(学術)	SUKALYAN KUMAR KUNDU (口腔病理学)	Lymphatic involvement in the histopathogenesis of mucous retention cyst (粘液貯留嚢胞の病理組織発生機序へのリンパ管の関与)
博士(歯学)	鞍立桃子 (う蝕学)	Immunohistochemical Analysis of Nestin, Osteopontin and Proliferating Cells in the Reparative Process of Exposed Dental Pulp Capped with Mineral Trioxide Aggregate (Mineral trioxide aggregate による直接覆髄後の修復過程における、Nestin、Osteopontin、および増殖細胞の免疫組織化学的解析)
博士(歯学)	高橋 収 (予防歯科学)	地域在住日本人閉経女性におけるアタッチメントレベルと骨密度との関連
博士(歯学)	根子 淑江 (予防歯科学)	Long-term caries preventive effects of a school-based fluoride mouth rinse program in adulthood (小児期におけるフッ化物洗口経験が成人期のう蝕予防効果に与える影響)
博士(歯学)	松本 沙耶香 (予防歯科学)	The effect of antimicrobial periodontal treatment and periodontal maintenance on type 2 diabetes mellitus patients using serum adiponectin as a marker (2型糖尿病患者における血清アディポネクチンに対する抗菌的歯周治療と歯周メンテナンスの有用性)
博士(歯学)	川崎 勝盛 (小児歯科学)	小児の成長に伴う一口量とばらつきの変化に関する研究
博士(歯学)	庭野 将広 (顎顔面口腔外科学)	Immunocytochemical Localization of Caveolin-3 in the Synoviocytes of the Rat Temporomandibular Joint During Development (ラット顎関節滑膜の発生過程におけるカベオリン-3タンパクの免疫細胞化学的局在)
博士(歯学)	平野 千鶴 (顎顔面口腔外科学)	歯肉癌における Tetraspanin ファミリー遺伝子発現レベルの診断的有用性
博士(歯学)	江川 広子 (口腔生理学)	咀嚼・嚥下機能障害評価基準の指針策定に向けた介護保険施設実態調査
博士(歯学)	塚田 徹 (摂食・嚥下リハビリテーション学)	Effects of head posture and food consistency on the oropharyngeal swallowing (姿勢と食品の硬さが嚥下口腔咽頭期に与える影響)

博士の専攻 分野の名称	氏名(専攻)	博士論文名
博士(歯学)	RAHMAN MD. MOSTAFEEZUR (口腔生理学)	Comparison of the modulatory effects on the jaw-opening reflex among the different periods of mastication in awake rabbits (覚醒ウサギにおける異なる咀嚼期の開口反射の変調様式)
博士(歯学)	杉野 伸一郎 (口腔生理学)	姿勢や食塊の性状の違いがヒトのオトガイ舌筋の筋電図活動に与える影響
博士(歯学)	三瀬 泰 (歯科矯正学)	重度の上顎前突における治療前後の硬、軟組織側貌変化—外科的矯正治療と矯正単独治療との比較—
博士(歯学)	渡邊 洋平 (歯科矯正学)	歯根完成歯自家移植の長期臨床的術後調査—移植歯の成績と患者の評価について—
博士(歯学)	谷口 裕重 (摂食・嚥下リハビリテーション学)	Effects of food texture on the coordination between tongue pressure and propulsion of food bolus during the oropharyngeal phase of swallowing (食品物性が嚥下の口腔咽頭相における舌圧および食塊移送との間の協調に与える影響)
博士(歯学)	奥井 隆文 (歯周診断・再建学)	Characterization of CD4 + FOXP3 + T-cell clones established from chronic inflammatory lesions (慢性炎症性病変部より樹立した CD4 + FOXP3 + T 細胞クローンの性状解析)
博士(歯学)	梶田 桂子 (歯周診断・再建学)	Quantitative messenger RNA expression of Toll-like receptors and interferon- $\alpha$ 1 in gingivitis and periodontitis (歯肉炎および歯周炎組織における Toll 様受容体およびインターフェロン $\alpha$ の遺伝子発現定量解析)
博士(歯学)	土門 久哲 (歯周診断・再建学)	Early and preferential induction of IL-1 receptor-associated kinase-M in THP-1 cells by LPS derived from Porphyromonas gingivalis (Porphyromonas gingivalis 由来 LPS により THP-1 細胞において IL-1 receptor-associated kinase-M が早期かつ優先的に誘導される)
博士(歯学)	本間 祐子 (歯周診断・再建学)	Lower antibody response to Porphyromonas gingivalis associated with Fc $\gamma$ R11b polymorphism (Fc $\gamma$ R11b 遺伝子型と Porphyromonas gingivalis に対する抗体産生調節との関連性)
博士(歯学)	山口 人巳 (歯周診断・再建学)	植物タンニン配合シュガーレスガムが歯周健康へ与える影響
博士(歯学)	海野 秀基 (硬組織形態学)	Pulpal regeneration following allogenic tooth transplantation into mouse maxilla (マウス顎骨への歯の他家移植後の歯髄再生過程)
博士(歯学)	高森 泰彦 (硬組織形態学)	Capacity of dental pulp differentiation in mouse molars as demonstrated by allogenic tooth transplantation (マウス臼歯他家移植により明らかにした歯髄分化能)
博士(歯学)	原田 政広 (硬組織形態学)	Cell dynamics in the pulpal healing process following cavity preparation in rat molars (ラット臼歯窩洞形成後の歯髄修復過程における細胞のダイナミクス)
博士(歯学)	甲斐 朝子 (摂食機能再建学)	Does the head start to move preceding the mandible during jaw opening-closing movement? (開閉口運動時において運動開始は頭部が下顎よりも先行するか)
博士(歯学)	竹内 聡史 (摂食機能再建学)	下顎タッピング運動に伴伴する体幹動揺の立位と座位の違い

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	相川 弦 （組織再建口腔外科学）	顎変形症患者の顎関節症状と骨格形態との関連
博士（歯学）	岩本 忠士 （組織再建口腔外科学）	閉塞型睡眠時無呼吸症候群患者に対する口腔内装置による治療効果の予測に関する研究
博士（歯学）	金丸 祥平 （組織再建口腔外科学）	ヒト口腔扁平上皮がん細胞株における VEGF-A、VEGF-C および VEGF 受容体の発現量に関する研究 （Expression Levels of VEGF-A, VEGF-C and VEGF Receptors in Human Oral Squamous Cell Carcinoma Cell Lines）
博士（歯学）	齊藤 美香 （組織再建口腔外科学）	口腔粘膜水分量に関する研究 1）口腔水分計の測定精度の評価 2）高齢者の口腔粘膜水分量の時間帯による変化
博士（歯学）	菅井 登志子 （組織再建口腔外科学）	Clinical Study on Prognostic Factors of Autotransplantation of Teeth with Complete Root Formation （歯根完成歯自家移植の予後因子に関する検討）
博士（歯学）	永井 正紀 （組織再建口腔外科学）	Skeletal Stability after Bimaxillary Orthognathic Surgery in Patients with Mandibular Prognathism: Titanium Versus PLLA-Resorbable Miniplate Osteosynthesis （下顎前突症患者に対する上下顎移動術後の顎骨安定性について—骨接合にチタンミニプレートを使用した群と PLLA 吸収性プレートを併用した群の比較—）
博士（歯学）	長谷部 大地 （組織再建口腔外科学）	Effects of mandibular setback surgery on oropharyngeal airway and respiratory function during sleep （下顎骨後方移動術が気道形態と睡眠時の呼吸状態に及ぼす影響について）
博士（歯学）	五十木 裕子 （顎顔面放射線学）	眼窩下間隙の CT 所見—犬歯根尖病変に起因する歯性感染の波及について—
博士（歯学）	齋藤 正直 （顎顔面口腔外科学）	Clinicopathological distinction of two categories of oral squamous cell carcinoma of the tongue: de novo and sequential types （舌扁平上皮癌における疾患区分概念：新規発生型と悪性転化型）



## 平成19年度 大学院医歯学総合研究科論文博士取得者

博士の専攻 分野の名称	氏名	博士論文名
博士（歯学）	原 仁	Fine needle aspiration cytology of basal cell adenoma of the salivary gland (唾液腺基底細胞腺腫の穿刺吸引細胞診)
博士（歯学）	藤山友紀	Relationship between tongue coating and halitosis in periodontally healthy subjects (歯周組織学的に健全な者における舌苔と口臭の関係)

